

令和4年度 事業計画



千葉科学大学附属高等学校

千葉科学大学附属高等学校は、国内外の若人の成長に主眼をおくとともに、「自ら考え、判断し、行動できる、自立した人材」を地域社会のみならず国内外に輩出します。



我が国における著しい少子化の進行、それに付随して危惧される将来的な人材の欠乏、ますますその速度を増すグローバル化の進展。こうした急速な社会状況の変化の中、高等学校における学びの在り方も時代の先を見据えたものでなければならない。

こうした背景のもと、本校は主に外国籍の生徒を受け入れ、わが国の文化や伝統、習慣に慣れ親しんでもらうとともに、卒業後については日本国内の高等教育機関に進学し、我が国の将来的な労働力を支える人材を育成することを目的とする。また、建学の理念に則し「学びの場の多様性」の必要性が叫ばれる現在、地域の学びのセーフティネットとしての役割を果たしていくことがその責務と認識しつつ、通信制課程の強みを活かし生徒一人ひとりの能力・適性・興味・関心に応じたカリキュラムを提供し、卒業までのプランをオーダーメイドで作成し提供していくことをその目的としている。

上記目的達成のため、以下の3つのポリシーを設定することとした。

1 グラデュエーション・ポリシー (GP)

- ア 外国籍生徒には、我が国の文化や伝統・習慣に慣れ親しませるとともに、十分な日本語能力を習得させる。
- イ 生徒一人ひとりの生活背景を勘案しつつ、能力・適性・興味・関心に応じた進路決定を実現させるとともに、一般的教養を高め、かつ専門的知識、技術・技能を習得させる。

2 カリキュラム・ポリシー (CP)

- ア 生徒一人ひとりの学力に応じた教育課程を編成し、その実施を図る。
- イ 高等教育機関で学ぶに足る学力の定着を図るための教育課程を編成し、その実施を図る。
- ウ 生徒一人ひとりの能力・適性・興味・関心に応じた柔軟性のある教育課程を編成し、その実施を図る。

3 アドミッション・ポリシー (AP)

- ア 将来的には、我が国において就労を目指す国内外に住する外国籍生徒を受け入れる。
- イ 諸々の事情により、他の過程に進学することが困難な生徒を受け入れる。
- ウ 特に自主的活動のための時間を必要とし、多様な学びの場として通信制課程を選択する生徒を受け入れる。

以上3つのポリシーを具現化するため、本校の中期目標を以下のとおりとする。

1 グラデュエーション・ポリシー (GP)

上記CP及びAPがGPに対応したものであるか否か、常に自己点検・評価する。

2 カリキュラム・ポリシー (CP)

国内外含め日本籍・外国籍をもつ一人ひとりの生徒の能力・適性・興味・関心に応じたカリキュラムの運用を図り、広大連携を友好的に活用していく。

3 アドミッション・ポリシー (AP)

ア 将来我が国での就労を希望する生徒を受け入れるため、海外教育提携機関を開拓し、その提携先の質の向上を図るための仕組みを構築する。

イ、地域の学びのセーフティネットの役割を果たすため、各教育機関・サポート施設との連携を強化していく。

千葉科学大学附属高等学校 校長 太田 臣一

I. 教育・研究の推進

1. グラデュエーション・ポリシー（GP）に関する目標

本校は、生徒の多様な背景を基礎とし、個々の能力・適性・興味・関心に応じた将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させる。また、学校教育活動を通じて、外国籍の生徒は、十分な日本語能力の修得及び日本の文化や伝統、風習に慣れ親しむこと資質・能力を育むことを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 本校の GP（グラデュエーション・ポリシー）を具現化するための学校自己点検・評価の実施。	【1-1-1】	・本校の GP を具現化するための教育システムが円滑に運用できているか、自己点検・評価を行う。
	【1-1-2】	・学習等支援施設に対し、日本語教育等の生徒へのサポートが適切に運用されているか、各学習等支援施設の活動の状況について、評価を行う。

2. カリキュラム・ポリシー（CP）に関する目標

本校の GP（グラデュエーション・ポリシー）を達成するため、生徒一人ひとりの能力・適正・興味・関心に応じたカリキュラムを運用することを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 外国籍の学生に対するカリキュラムの運用	【2-1】	・学習等支援施設と連携し、外国籍の生徒の語学能力、基礎学力に応じた個別の履修科目指導を行う。
2. 国内の学生に対するカリキュラムの運用	【2-2】	・国内の生徒の背景に対応した個別の履修科目指導を行う。
3. 千葉科学大学と連携した教育の推進	【2-3】	・将来的な千葉科学大学等の関連大学への進学を視野に入れた高大連携のあり方の検討を行い、関連大学と協議を行い、高大連携科目の内容を決定する。

3. アドミッション・ポリシー（AP）に関する目標

本校のスクール・ミッションを現実化するために、教育活動に沿って学びうる生徒像を定め、その受入を行うことを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 将来的に日本で就労を目指す国内外にいる外国籍の生徒の受入の推進	【3-1-1】	・海外より将来的に日本で働くことを希望する生徒を受け入れるために教育提携機関を開拓する。
	【3-1-2】	・海外の学習等支援施設に対し、日本語教育等の生徒へのサポートが適切に運用されているか、各学習等支援施設の活動の状況について、評価を行う。
	（【1-1-2】と同様）	・学習等支援施設に対し、日本語教育等の生徒へのサポートが適切に運用されているか、各学習等支援施設の活動の状況について、評価を行う。
2. 様々な事情により全日制課程に進学することが困難な生徒の受け入れ体制の構築	【3-2-1】	・地域の学びのセーフティネットを果たすため、地域の行政・教育機関・サポート施設との連携を推進する。

中期計画	事業計画	
3. 学びの場の多様性を背景とした、より自己活動の時間を求める生徒の受け入れ体制の構築	【3-3-1】	・生徒一人ひとりの興味・関心に応じたカリキュラムを提供するとともに、スクーリング日程の調整等、個々の事情に応じた受け入れ体制を構築する。

主な行事予定	
4月15日	入学式（前期）
5月29日	学校説明会①
6月16日	千葉科学大学附属高等学校 日本語スピーチコンテスト 第1回 黒潮杯
6月19日	学校説明会②
7月23日	学校説明会③
8月7日	学校説明会④
8月23～29日	集中スクーリング（前期）
9月10日	学校説明会⑤
10月5日	入学式（後期）
10月16日	学校説明会⑥
10月21日	開学式典
11月5日	学校説明会⑦
11月12・13日	文化祭
12月23日	学校説明会⑧
1月22日	学校説明会⑨
2月16日～22日	集中スクーリング（後期）
2月24日	学校説明会⑩
3月10日	後期卒業式

学生数・教職員数

■在籍学生数

（令和4年5月1日現在）

課程・学科・コース名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
広域通信制課程 普通科	133	10	400	10
総合計	133	10	400	10

（単位：人）

■教職員数

(令和4年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計	事務職員
1	1	5	7	2

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和4年度 予算額	令和3年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	2,940	
		経常費等補助金	0	
		その他収入	106	
	計	3,046		
	支出	人件費	65,102	
教育研究経費		15,022		
管理経費		15,710		
その他支出		0		
計	95,834			
教育活動収支差額			△ 92,788	
教 活 外	収入	受取利息等	0	
	支出	借入金利息等	0	
	教育活動収支差額	0		
経常収支差額			△ 92,788	
特 別	収入	資産売却差額等	0	
	支出	資産処分差額等	0	
	特別収支差額	0		
基本金組入前収支差額			△ 92,788	
基本金組入額合計			△ 800	
当年度収支差額			△ 93,588	

■財務改善に向けた取組

本校は、令和4年開校の高等学校であり、主として、海外の外国籍の生徒を受け入れ、千葉科学大学を始めとする関連大学に進学し、将来的な労働力を支える人材の育成を目的としている。本年はコロナ禍の影響もあり、スクーリング等も可否も含め、状況が不透明なため、海外提携機関からの受入生徒数はかなり厳しい数値となった。また、主として展開を考えている中国においては、学年暦が9月始まり6月卒業となるため、設置計画承認がおりた、昨年8月末にはすでに進学先が決定している中での募集活動となり、中国国内からの生徒の受入が出来ない状況であった。本年は、10月の中国からの生徒受入に向け、新たな海外の教育提携機関開拓を行うとともに、現在、窓口になっている国内の日本語学校にも働きかけを強め、生徒確保を目指す。

また、国内の生徒受け入れに関しては、学びの場の多様性を受け、地域社会の学びのセーフティネットとなるよう、地域の行政、教育機関、福祉施設等との連絡・連携を密に取っていく。

■施設設備整備計画（抜粋）

完成年次を迎える令和6年度末までは新たな施設設備計画は無いが、千葉科学大学の施設と共用して利用している現存施設に関し、必要に応じて、経年劣化による修繕、部品交換等を行っていく予定である。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
該当なし	

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
該当なし	